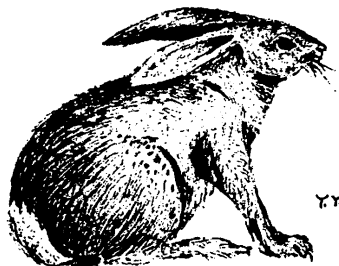


0106.14 1. うさぎ (rabbits and hares)

うさぎ (rabbits and hares) はうさぎ目の2科 (ウサギ科、ナキウサギ科) のうち、ウサギ科に属する。一般に売られているうさぎは、毛皮用、食肉用、実験用、愛玩用等の品種を含め、全てウサギ科カイウサギ属のアノウサギを家畜化したものである。上顎の大きな一対の門歯の奥に、第二門歯を持つ点が齧歯類と異なる。愛玩用にはヒマラヤン、イングリッシュ、ダッチ、ポーリッシュ種及びその改良種がある。



種類	ネザーランド・ドワーフ種 (ピーターラビット)	アンゴラ種	日本白色種
原産地	オランダ	トルコ	日本
体長	25cm	30cm	40cm
体重	1~1.5kg	1.8~3.5kg	4~5kg
毛色	褐色又は薄いグレー 目は黒	黒、赤、褐色、グレー など	白、目は赤

0106.19 1. フェレット

イタチ科、ケナガイタチ属で野生のイタチを馴化したものといわれている。頭は比較的小さく、目がくりくりしている。耳は大きくない。首と胴が長いのが特徴で、毛はしなやか、体の動きは柔軟である。雌の体重は 650~1.1kg、雄の体重は 1.2~2.0kg、体長は平均 30~40cm、尾の長さは 10~15cm で柔らかい毛に覆われている。

フェレットの毛色

フェレットにはセーブル、バタースコッチ、シルバーミット、ホワイトファー・ブラックアイ、アルビノの5つの代表的毛色がある。セーブルは最もフェレットらしく、暗い茶色の毛色で顔に限取りがある。表情が可愛く日本ではこの種類がよく売られている。バタースコッチは柔らかいうす茶色の毛色が特徴。アルビノは全身が白く、目が赤い。シルバーミットは手足の先が白く、全身がグレーで胸元の毛は白い。ホワイトファー・ブラックアイは全身が白く、目が黒い。



0106.20 1. 爬虫類

爬虫類の体表は角質化した鱗でおおわれ、鳥類やほ乳類にある羽毛や毛は生えていない。薄くて裸のままの両生類の皮膚に比べ水分を通しにくく、乾燥に耐えられるので、より陸上生活に適応している。ヘビや一部のトカゲの仲間のように例外はあるが、基本的には四肢はよく発達しており、普通四肢には5本の指があり、先端には爪を備えている。現生の爬虫類は約6,500種が知られ、それぞれの特徴により、わに目、かめ目、有鱗目、かい頭目（ムカシトカゲ類）に分けられる。

0106.20 2. かめ目

かめ類は、鱗の他に丈夫な甲羅が発達している。熱帯から温帯にかけ約 240 種が分布。かめの甲羅は背中側に背中、腹側に腹甲があり、両脇が甲橋でつながっており前後の開いた箱状をしている。前方からは頭と前肢、後方からは尾と後肢が出ている。現生のかめ類は歯がなく、上、下顎ともに鳥のくちばしのように角質で覆われている。

かめ類は大きく分けて、潜頸類と曲頸類に分けられ、前者は、頭を甲羅の中に前を向いた状態のまま潜り込ませる。後者は、長い頸を持った種類が多く、頸を引っ込める際には頸を水平に曲げ、背甲と腹甲の隙間に折り曲げるようにしてはめ込まれる。

(潜頸類)

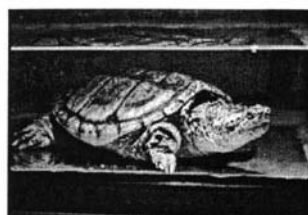
(曲頸類)



アカウミガメ



アルダブラゾウガメ



カミツキガメ



スッポン



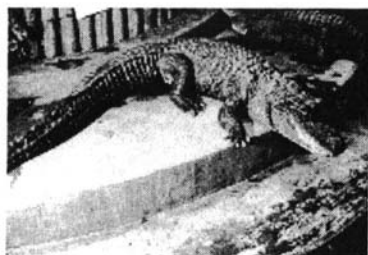
ミシシッピーアカミミガメ

ミシシッピーアカミミガメの幼亀
(ミドリガメ)

(写真提供 (財)東京動物園協会)

0106.20 3. その他のもの

わに目：現生するもっとも大型の爬虫類で、主に熱帯や亜熱帯の水辺に棲息する。体表は大きな板状の鱗で覆われ、外見上鎧をまとっているように見える。特に頸や背面には大きな固い鱗があり、また、尾の背面には三角形の突起が並んでいる。太くて短い四肢を持ち、前肢に5本、後肢に4本の指があり、後肢の指間には水かきを具えている。鼻、目、耳は水平に付いており、そこだけを水面に出して休んだりすることができる



ミシシッピーワニ



イリエワニ

(写真提供 (財)東京動物園協会)

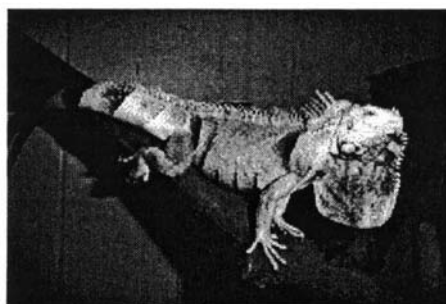
有鱗目：極地を除くあらゆる地域に棲息する。体表には小さな鱗が全身を覆っている。有鱗目はトカゲ類とヘビ類の2つのグループに分けられる。

① トカゲ類

細長い体型で長い尾があり、基本的には四肢が発達していてそれぞれに5本の指を具えているが、中には四肢が退化して縮小したりなくなったものもある。イグアナ科、カメレオン科、ヤモリ科、トカゲ科、アガマ科、カナヘビ科、ドクトカゲ科、オオトカゲ科など16科に分けられる。

・イグアナ科

北米南部から南米まで広く分布し、一部はマダガスカルやフィジーなどにもいる。体型はさまざま、乾燥地帯の地上棲のものは褐色でずんぐりしているが、樹上棲のグリーンアノールやグリーンイグアナはスリムな体型で体色も緑色である。グリーンイグアナは全長が180cmになり、この仲間には、頭部や背中にひだや突起状の飾りのあるものが多くいる。



グリーンイグアナ (写真提供 (財)東京動物園協会)

• カメレオン科

アフリカ、マダガスカル、インドに分布するもっとも樹上生活に適した種類。四肢の指は2本と3本がくっついて木の枝をつかみやすくなっており、尾も枝などに巻き付けることができる。目は突出していて左右を別に動かすことができる。体色を環境に合わせて変化させることができ、動作も非常に緩慢である。普通は全長 30cm ほどであるが、大きな種類は 70cm ほどになる。



ジャクソンカメレオン (写真提供 (財)東京動物園協会)

• ヤモリ科

熱帯から温帯にかけて棲息し、四肢の指が吸盤状に広がり、その下面に細かい毛状の突起がならんでおり、滑らかな垂直面でも登ることができる。



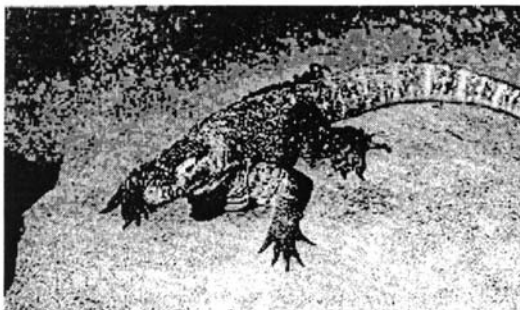
トッケイヤモリ (写真提供 (財)東京動物園協会)

• トカゲ科

熱帯から温帯にかけて棲息し、体型は細長く小さめの四肢がある。普通体表には光沢があり、孵化したての小さなトカゲは尾が鮮やかな青色で、胴には明るい縦のすじがある。

・オオトカゲ科

アフリカからインド、東南アジア、ニューギニアを経てオーストラリアに分布。全長1mを超える大型の種類が多いが、20cmの小型のものもいる。四肢や尾は発達し、尾をむちのように振って武器として使う。先端が2つに分かれた舌を持つ。



コモドオオトカゲ (写真提供 (財)東京動物園協会)

② ヘビ類

四肢を持たない細長いひも状の体型を持つ。目はまぶたに癒着しており開閉することはない。ニシキヘビ科、ナミヘビ科、コブラ科、ウミヘビ科、クサリヘビ科など11科ほどに分けられている。



キングコブラ



アミメニシキヘビ

(写真提供 (財)東京動物園協会)

かい頭 (ムカシトカゲ) 目：体型はトカゲに似ているが、吻端がややとがり、くちばしのようにになっている。ずんぐりした体型で、頸、背中、尾に棘状の突起がある。目は大きく瞳は垂直で、頭頂に第3の目といわれる頭頂眼がある。現在ではムカシトカゲ1種のみがニュージーランドに生き残っているが、厳重に保護されているため、日本に輸入されることはない。

0106.32 1. おうむ目

オウム科、ヒインコ科、インコ科からなるが、科の違いを認めない説もある。おうむ目は、外見上からインコとオウムに分かれ、一般にインコは小型で色彩に富み尾が長い。オウムは中・大型で尾が短く冠羽（頭に直立する羽）が発達している。インコはインコ科、ヒインコ科に相当するが、例外がある。ニューギニア・オーストラリア・南アメリカに多く分布し、アフリカ、熱帯アジアにも少数が分布する。頭は大きく、丸く下に曲がった大きな嘴を持つ。

① インコ科

ミヤマオウム、ケラインコ、ヨウム、フクロオウムの4亜科からなる。オーストラリア・ニューギニア・熱帯アジア・アフリカ・南アメリカに分布。上嘴は下嘴よりも大きく、先端にやすり目がある。外鼻孔は小さく円形。植物食で、森林性・樹上性の鳥が多いが、草原性・地上性の種もいる。大きさはさまざまで全長9~100cm。尾の長さも長短がある。

② ヒインコ科

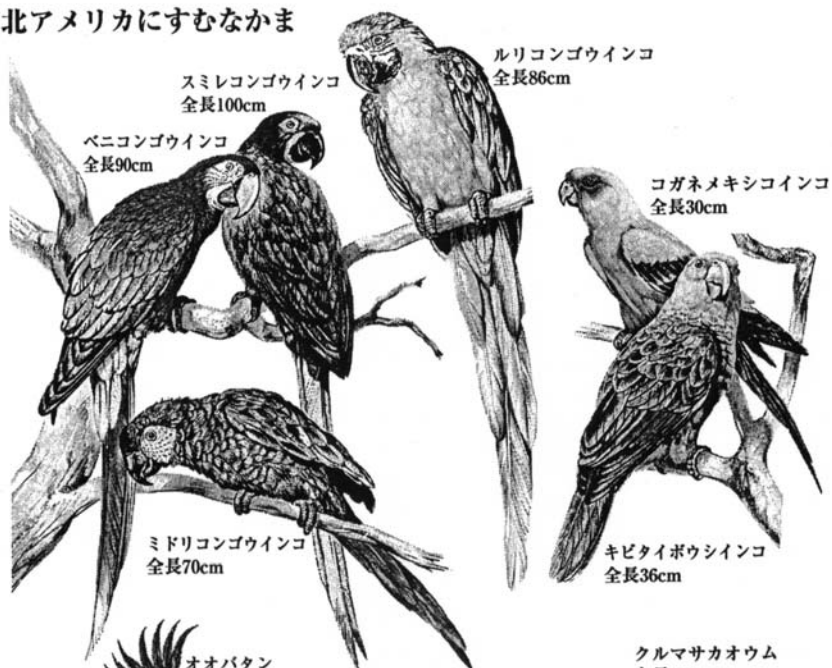
上嘴の先端には他科にあるやすり目がない。蝟膜は帯状で、小さな鼻孔が開孔する。舌の先端はブラシ状で、主に花蜜・花汁や柔らかい果実をなめとる。種子を食べる種はない。行動は非常に活発である。オーストラリアとニューギニアに多くの種が産し、ほかにインド東部・フィリピン・ポリネシアまで分布。

③ オウム科

オウム亜科、オカメインコ亜科からなる。オーストラリアを中心に分布。大型短尾のオウム亜科が多く、オカメインコ亜科は中型長尾。長い冠羽を持つ。下嘴は上嘴よりも幅が広く、下嘴が上嘴の側部を包む。上下の嘴には歯のような欠刻があり、上嘴先端はやすり状になっている。主に森林性で、堅果や果実を食べる。

(三省堂 コンサイス鳥名事典)

南北アメリカにすむなかま



オーストラリアや
ニュージーランド
にすむなかま



アフリカにすむなかま



アジア南部・
オーストラリア
にすむなかま



0106.39 1. その他のもの

はと目

ドードー科 (すでに絶滅)、ハト科、サケイ科からなる。

① ハト科

全長14~84cm。ずんぐりした胴と小さめの頭を持ち、大きな胸骨には発達した筋肉が付き、高速長距離飛行ができる。頸と足は短く、小さく短い嘴の基部にはろう膜か鼻瘤がある。ほとんどの種が雌雄同色。羽は密で豊かで、華やかな色彩に富む種が多い。羽は抜けやすく、かつ羽粉を生じやすい。主に樹上性で、営巣・休息はほとんどの種が樹上性であるが、採食のために地上におりることが多い。食物は主に植物質で、種子・果実・液果などを食べる。水を大量に飲む。このとき、嘴を水中につけたまま吸引するのはハト目の特徴。極地と砂漠を除く全世界に分布し、孤島に生息するものも少なくない。植物食なので飼いやすく、しばしば飼鳥とされ、特にカラバトは家禽化されて食用・愛玩用などに多くの品種が作出されている。

(三省堂 コンサイス鳥名事典)

ユーラシアのハト



アジア南部や
オーストラリアのハト

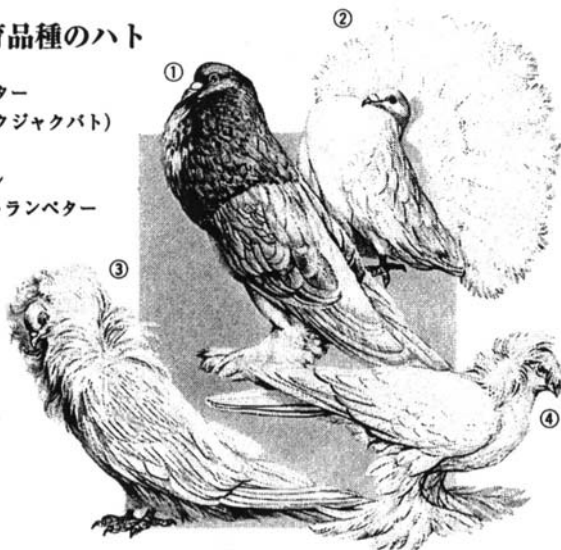


アメリカのハト



かわった飼育品種のハト

- ①マクバイ=パウター
- ②ファンテール (クジャクバト)
- ③ジャコビン
- ④ホワイト=ダブル
クレストッド=トランベター



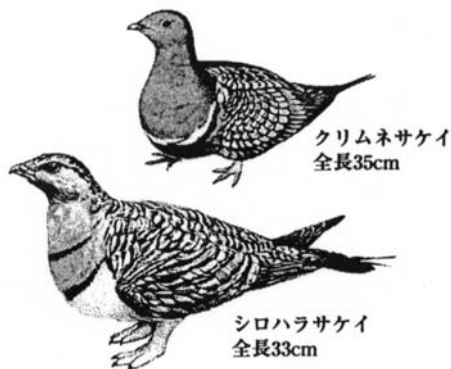
(© 講談社 動物図鑑 ウォンバット3 鳥)

② サケイ科

全長 23~40cm。細長い翼、長い尾、極端に短い足を持ち、ユーラシア、アフリカの荒地に生息。形態は似ていないが骨格や筋肉などはハト科に類似し、水飲法もハト科と同じく嘴を水につけたうつつむいた姿勢のままで連続的に水を飲み込むことができる。

(三省堂 コンサイス鳥名事典)

⇒サケイのあしゆびは、前3本が根もとでつながっていて、後ろゆびは退化して、なくなっている。あしのうらは、魚のうろこのようになっている。また、あし全体が毛でおおわれていて、砂や雪の上を歩きやすくなっている。



クリムネサケイ
全長35cm

シロハラサケイ
全長33cm

(© 講談社 動物図鑑 ウォンバット3 鳥)

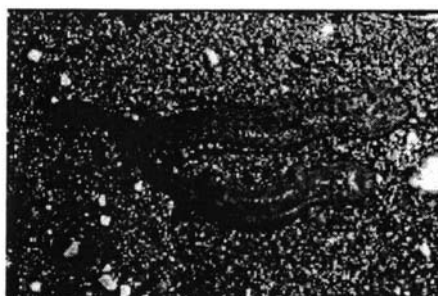
0106.90 1. その他のもの

両生類

現生の両生類は、無足目（アシナシイモリ）有尾目（イモリ、サンショウウオ）、無尾目（カエル）に分類される。一般的な特徴として、体表に鱗、羽毛、毛がなく、前肢に4本、後肢に5本の指を持ち、肺で呼吸し、変温性である。卵生または卵胎生で、水中で遊泳幼生期を過ごす種が多い。無足目は熱帯、有尾目は北半球の温帯を中心に分布し、無尾目は全世界に分布する。



イモリ（日本産）



中国オオサンショウウオ



ベルツノガエル



マダラヤドクガエル

（写真提供 (財)東京動物園協会）